

くるめ 障害者基幹 相談支援 センター通信

令和2年2月 7号

こんにちは!「基幹通信」です

- 特集インタビュー** 西鉄バス久留米株式会社
誰もが住みやすい街、地域にしていきたい
- インタビュー** 親なきあとを考える
15歳から40年間、働いてきました
- 座談会** これからの障害者福祉を語ろう
- 提言** 「リカバリー」に際限はない
- 特別寄稿** 「尊厳死」「安楽死」を考える
- 基幹センター報告** 「バリアフリーカフェ」報告

当事者分科会特集



くるめ障害者基幹相談支援センター通信 7号

令和2年2月1日発行年2回発行

発行：久留米市障害者基幹相談支援センター

写真掲載については本人の承諾を得ています

基幹センターは今

報告

久留米市障害者地域生活支援協議会 当事者分科会
「バリアフリーカフェ」を開催し、意見交換を実施しました。

当事者分科会は2ヶ月に1回、障害当事者の参加者を募ってバリアフリーカフェを開催し、テーマ毎に意見交換を実施しています。それらの意見は集約され、誰もが暮らしやすいまち久留米を実現するため、施策推進部会で提案・協議されています。今回は、令和元年9月と11月のバリアフリーカフェをご紹介します。

9月「みんなで話そう、障害のこと」

障害当事者、大学生、市職員などを含む14人で開催。参加者から、「障害に関わらず、家族と一緒に暮らしていく生活を望んでいる」「障害があると、排泄、乗車や移動など様々な家族支援が必要となる」「親と兄弟では支援に対する想いや対応が違う」「兄弟が結婚していると、結婚相手との関係性によって支援が頼みづらい」といったお話がありました。そこから親亡き後へと話が展開し、「在宅生活を望んでいるが、親亡き後は施設入所を勧められそう」といった意見も。後半では、「最近、周りの人が何か手伝いましょうかと声をかけてくれる」「自分から手伝って下さいと言った方が良い」と他者への感謝や意思表示の必要性について話されました。



11月「当事者が望む相談支援について」

参加者より、「相談員の来訪が少ないし、面談時の対応にも物足りなさを感じている。自分の意見は相談員に届いているのだろうか。相談員はいらない」との意見が出ました。別の参加者から、「相談員が自分の期待値を超える事を願っているのではないかな?ある時、相談員から、ねえ聞いて、と相談されて逆に励ました事がある。ギブ&テイクじゃないけど、お互い助け合ってる事もいいなと思う」とアドバイスがありました。率直な思いを出し合う意見交換会として、印象的な場面だったと思います。



分科会には市障害福祉課の担当者も参加します



バリアフリーカフェを通して

このところ、支援対象者としてあげられる障害者や高齢者、子供が、誰かを助ける支援者となっている場面をよく目にします。日常生活においては、誰もが人を助ける支援者にもなり、支援を受ける側にもなるものです。他人の心情や身の上を推し量り、気遣う「思いやり」と、他人の行動や心を有り難く思い礼を示す「感謝」が、支援の中で互いに繰り返される現場に立ち会うと、いつでも温かさを感じます。



- **東部障害者基幹相談支援センター**
〒839-1216 久留米市田主丸町中尾1274番地2
TEL 0943-73-0045 FAX 0943-73-0046
- **西部障害者基幹相談支援センター**
〒830-0071 久留米市安武町武島468番地2
TEL 0942-27-2038 FAX 0942-27-2058
- **南部障害者基幹相談支援センター**
〒830-0053 久留米市藤山町1764番地4
TEL 0942-51-8555 FAX 0942-22-2275
- **北部障害者基幹相談支援センター**
〒830-0027 久留米市長門石1丁目1番32号総合福祉会館2F
TEL 0942-65-7855 FAX 0942-65-7844



基幹センターサイト
QRコード